

## 腹腔鏡・内視鏡合同手術（LECS）における内視鏡技師の役割

日本赤十字社長崎原爆病院 内視鏡室

消化器内科 楠本 浩一郎

消化器外科 中崎 隆行

内視鏡技師 田島 暢子 高以良 彩

看護師 渡瀬 聡子 清水 美由紀

### 1. はじめに

A 病院内視鏡室は平成 24 年の検査実数は上部消化管検査 3882 件、下部消化管検査 866 件、気管支鏡検査 212 件、膵胆管造影検査 136 件であった。当院は現在 1 名の消化器内科医師が ESD を行っており、昨年は年間 26 件であった。

H25 年 7 月に初めて当院において腹腔鏡・内視鏡合同手術（laparoscopy endoscopy cooperative surgery 以下 LECS）を行なった。今回 LECS という新しい治療を行うことで、消化器内科 消化器外科、麻酔科、手術室看護師 内視鏡室看護師という他職種とのチーム医療を経験できた。

### 2. 症例紹介

72 歳 男性

[主訴] なし

[既往歴] # 1 糖尿病 # 2 胃潰瘍穿孔の術後 # 3 虚血性心疾患

# 4 陳旧性脳梗塞 # 5 閉塞性動脈硬化症

[現病歴] X 年 出血性胃潰瘍で緊急入院し内視鏡的止血術施行。翌月の上部消化管検査（以下 GIS）で胃体上部に一部陥凹伴った隆起性病変認め生検施行。病理診断で Adenocarcinoma tub1, Gropu5 であり再度 GIS 施行。病変自体は早期胃がんであるが、潰瘍による線維化が強く深達度診断が困難であった。しかし外科手術では胃全摘であり、術後の QOL を考え LECS の方針となった。

### 3. 結果

全身・硬膜外麻酔下で施行。手術時間 2 時間 22 分。出血量 18ml。胃切除パスでバリエーションなく術後 3 日目で食事開始。術後 9 日目の GIS で狭窄・出血なく 10 日目で退院。術後 2 ヶ月目の GIS でも問題なし。

### 4. 考察

今回の LECS を行うにあたり、内視鏡室看護師・内視鏡技師は、消化器医師からの事前学習、カンファランス、手術室内での治療処置具やスタッフ配置等の様々な調整が必要であった。今後も患者の QOL 維持のため LECS は選択される治療である。この経験を通して、チーム医療の連携や、内視鏡技師としての役割をさらに深めるための経験や、知識・技術の習得が必要である。

### 5. 今後の課題

患者に安全で安心して治療を受けられるように、手術室看護師と共同の術前訪問や、術後のフォロー検査を患者が安心して受けられるよう援助をしていきたい。